

118 マルタとマリア

At the Home of Martha and Mary (NIV) / Mary and Martha Worship and Serve (NKJV)

ルカによる福音書 10 : 38~42

38 一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタ (姉) という女が、イエスを (新改訳：喜んで) 家に迎え入れた。

→ある村は、エルサレムから約 3 km 離れたところにあるベタニアの村 (オリーブ山の東山麓) で、マルタ、マリアそして兄弟ラザロ共に暮らしていた (ヨハネ 11 : 1)。

→マルタという名前はおそらくアラム語から来ており、「彼女は反逆的であった」を意味します。



【参考】マルタ、マリア、ラザロが登場する聖句

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 6 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S ヨハネによる福音書	11:1 ある病人がいた。マリアとその姉妹マルタの村、ベタニアの出身で、ラザロといった。	
S ヨハネによる福音書	11:2 このマリアは主に香油を塗り、髪の毛で主の足をぬぐった女である。その兄弟ラザロが病気であった。	
S ヨハネによる福音書	11:5 イエスは、マルタとその姉妹とラザロを愛しておられた。	
S ヨハネによる福音書	11:19 マルタとマリアのところには、多くのユダヤ人が、兄弟ラザロのことで慰めに来っていた。	
S ヨハネによる福音書	11:39 イエスが、「その石を取りのけなさい」と言われると、死んだラザロの姉妹マルタが、「主よ、四日もたっていますから、もうにおいます」と言った。	
S ヨハネによる福音書	12:2 イエスのためにそこで夕食が用意され、マルタは給仕をしていた。ラザロは、イエスと共に食事の席に着いた人々の中にいた。	

39 彼女にはマリア (妹) という姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って (→弟子が師から学ぶときの姿勢、将来自分が師となって弟子に教えようとする者の姿勢)、その話に聞き入っていた。

→ (回復訳解説) ギリシア語の「マリア」は、ヘブライ語の「ミリアム」に当たり、「彼女たちの反逆」を意味します(民数記 12 : 1、10~15)。・・・略・・・この物語に描写されているように、主の救いは反逆的な者を造り変え、従順な者にすることができます。旧約で反逆的であったミリアムのような者も、新約では従順なマリアのような者になります。

40 (主人であり、姉である) マルタは、いろいろのもてなし (→ご馳走、饗応=お持て成し：心をこめて歓待や接待やサービスをすること) のためせわしく立ち働いていた (→伝統的な婦人の役割、客をもてなすのは、主人の責務) が、(イエスの) そばに近寄って言った。

→ (口語訳) ところが、マルタは接待のことで忙がしくて心を取りみだし、イエスのところにきて言った、

「主よ、わたしの姉妹 (マリア) はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」

→マルタの自己義認から来る怒りの感情は、最初は妹のマリアに向けられたが、次にマリアの怠惰を放置しているイエスに向けられた。イエスをもてなそうとしたのに、イエスを批判してしまった。

【参考】東照公御遺訓

堪忍は無事長久の基、いかりは敵とおもへ

人の一生はまがれを忍んで遠き
 道をゆくが如し いざかへかたず
 不自由を常とおもへば不長なり
 ころろと歩むおらば固疾なり
 時を思ひ出すべ 堪忍は無事
 長久の基 いかりは敵とわし
 勝事ばかり知てまゐる事とら
 ざれば害共身にいたる おのれ
 を責て人をせむるな 及ばざる
 は過たるよりまがれり

東照公御遺訓

きはながく こころはまはやく
 いのちをがれ
 命
 氣
 心
 敵

41 主は（マルタをたしなめようと）お答えになった。

「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。42 しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

→（リビング・バイブル）しかし主は、マルタに言われました。「マルタ。あなたは、あまりにも多くのことに気を遣いすぎているようです。でも、どうしても必要なことはただ一つだけです。マリアはそれを見つけたのです。彼女からそれを取り上げてはいけません。」

→マルタは、イエスに与えようとした。しかし、マリアはイエスから受けようとした。ともにいいことであるが、大事なことは、イエスから受けずして、他者に与えることは難しいということである。それゆえ、マリアの選びの方がより良いとイエスはマルタに答えておられる。

注意しなければならないことは、イエスや人々にに奉仕する行動や気持ちの中には、傲慢という種が混入することである。そして、その傲慢の種が芽吹くと、他者への裁きという実を付けるようになる。

イエスから受けることは、この傲慢の種を取り除く作業であり、傲慢の種が取り除かれると、聖霊の実を付けるようになる。キリスト共に、時を過ごした人は、キリストの香りを放つようになる。

【一言】気疲れ

気疲れとは一般的に、心づかいや緊張などによる精神的疲れのことを言います。

一般に気疲れしやすい人は、真面目で責任感が強い、他人の目を気にし過ぎる、完璧主義、感受性が豊か等の特徴があります。

【参考】 マグダラのマリアとベタニアのマリアは同一人物である

マタイによる福音書

21:17 それ（宮清めの後）から、イエスは彼らと別れ、都を出てベタニアに行き、そこにお泊まりになった。

26:06 さて、イエスがベタニアで重い皮膚病の人シモンのお家におられたとき、



26:07 **一人の女**が、極めて高価な香油（＝ナルドの香油→混じり気のない甘松[かんしょう、オミナエシ科の多年生草本]で根や茎から香料を採る）の入った石膏の壺を持って近寄り、食事の席に着いておられるイエスの頭に香油を注ぎかけた。

27:56 ～十字架刑でイエスが息を引き取られた時～その中には、**マグダラのマリア**、ヤコブとヨセフの母マリア、ゼバダイの子らの母がいた。

27:61 **マグダラのマリア**ともう一人の（ヨセの→マルコ 15:47）マリアとはそこに残り、墓の方を向いて座っていた。

28:01 さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方に、**マグダラのマリア**ともう一人のマリアが、墓を見に行った。

マルコによる福音書

14:03 イエスがベタニアで重い皮膚病の人シモンのお家において、食事の席に着いておられたとき、**一人の女**が、純粹で非常に高価なナルドの香油の入った石膏の壺を持って来て、それを壊し、香油をイエスの頭に注ぎかけた。

15:40 ～十字架刑でイエスが息を引き取られた時～また、婦人たちも遠くから見守っていた。その中には、**マグダラのマリア**、小ヤコブとヨセの母マリア、そしてサロメがいた。

15:47 **マグダラのマリア**とヨセの母マリアとは、イエスの遺体を納めた場所を見つめていた。

16:1 安息日が終わると、**マグダラのマリア**、ヤコブの母マリア、サロメは、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。

16:09 [イエスは週の初めの日の朝早く、復活して、まず**マグダラのマリア**に御自身を現された。

この**マリア**は、以前イエスに七つの悪霊を追い出していただいた婦人である。

16:10 **マリア**は、イエスと一緒にいた人々が泣き悲しんでいるところへ行って、このことを知らせた。

16:11 しかし彼らは、イエスが生きておられること、そして**マリア**がそのイエスを見たことを聞いても、信じなかった。

ルカによる福音書

07:36 さて、あるファリサイ派の人が、一緒に食事をしてほしいと願ったので、イエスはその家に入って食事の席に着かれた。

07:37 この町に**一人の罪深い女**がいた。イエスがファリサイ派の人の家に入って食事の席に着いておられるのを知り、香油の入った石膏の壺を持って来て、

07:38 後ろからイエスの足もとに近寄り、泣きながらその足を涙でぬらし始め、自分の髪の毛でぬぐい、イエスの足に接吻して香油を塗った。

07:39 イエスを招待したファリサイ派の人はこれを見て、「この人がもし預言者なら、自分に触れている女がだれで、どんな人か分かるはずだ。罪深い女なのに」と思った。

08:02 悪霊を追い出して病気をいやしていただいた何人かの婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいた**マグダラの女と呼ばれるマリア**、

08:03 ヘロデの家令クザの妻ヨハナ、それにスサンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒であった。彼女たちは、自分の持ち物を出し合って、一行に奉仕していた。

24:10 それは、**マグダラのマリア**、ヨハナ、ヤコブの母マリア、そして一緒にいた他の婦人たちであった。婦人たちはこれら（→イエスの復活）のことを使徒たちに話したが、

24:11 使徒たちは、この話がたわ言のように思われたので、婦人たちを信じなかった。

ヨハネによる福音書

11:01 ある病人がいた。**マリア**とその姉妹（→姉）**マルタ**の村、**ベタニア**の出身で、ラザロといった。→マリア（＝マグダラのマリア→次節 11:02）とマルタ、そして兄弟ラザロは、ベタニアの村で共に住んでいた。

【参考】マルタとマリア（ルカによる福音書 10：38～42）

10:38 一行が歩いて行くうち、イエスはある村（→ベタニア）にお入りになった。すると、（姉の）マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。

10:39 彼女（→マルタ）には**マリア**という姉妹（→妹）がいた。**マリア**は主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。

10:40 マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」

10:41 主は答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。

10:42 しかし、必要なことはただ一つだけである。**マリア**は良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

11:02 この**マリア**は主に香油を塗り、髪の毛で主の足をぬぐった女である。その兄弟ラザロが病気であった。

11:03 姉妹たちはイエスのもとに人をやって、「主よ、あなたの愛しておられる者が病気なのです」と言わせた。

12:01 過越祭の六日前に、イエスは**ベタニア**に行かれた。そこには、イエスが死者の中からよみがえらせたラザロがいた。

12:02 イエスのためにそこで夕食が用意され、マルタは給仕をしていた。ラザロは、イエスと共に食事の席に着いた人々の中にいた。

12:03 そのとき、**マリア**が純粋で非常に高価なナルドの香油を一リトラ持って来て、イエスの足に塗り、自分の髪でその足をぬぐった。家は香油の香りでいっぱいになった。

19:25 イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアと**マグダラのマリア**とが立っていた。→【参考】

20:01 週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、**マグダラのマリア**は墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。

20:11 **マリア**（→マグダラのマリア）は墓の外に立って泣いていた。泣きながら身をかがめて墓の中を見ると、

20:12 イエスの遺体の置いてあった所に、白い衣を着た二人の天使が見えた。一人は頭の方に、もう一人は足の方に座っていた。

20:13 天使たちが、「婦人よ、なぜ泣いているのか」と言うと、**マリア**（→マグダラのマリア）は言った。「わたしの主が取り去られました。どこに置かれているのか、わたしには分かりません。」

20:14 こう言いながら後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。

20:15 イエスは言われた。「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。」**マリア**（→マグダラのマリア）は、園丁だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教

えてください。わたしが、あの方を引き取ります。」

20:16 イエスが、「**マリア** (→マグダラのマリア)」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「(わたしの) 先生 (ラビ)」という意味である。

→ラボニ=わたしの先生 (ラビ) →大いなる者、偉大な者、先生>ラボ

20:17 イエスは言われた。「わたしにすがりつくのはよしなさい。まだ父のもとへ上っていないのだから。わたしの兄弟たちのところへ行って、こう言いなさい。『わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方のところへわたしは上る』と。」

20:18 **マグダラのマリア**は弟子たちのところへ行って、「わたしは主を見ました」と告げ、また、主から言われたことを伝えた。

【参考】ヨハネによる福音書 19:25 →マタイ 27:56 とマルコ 15:40 は同じ内容の記述がされている。

イエスの十字架のそばには、**①その母**と**④母の姉妹**、**⑤クロパ**[アラム語] (→アルファイ[ギリシア語]の別名=クレオパ Cleopas [ルカによる福音書 24:18]) の妻**マリア**と**②マグダラのマリア**とが立っていた。

(新共同訳、聖書協会共同訳)

➡Near the cross of Jesus stood his mother, his mother's sister, Mary the wife of Clopas, and Mary Magdalene. (NEW INTERNATIONAL VERSION)

➡Now there stood by the cross of Jesus His mother, and His mother's sister, Mary the wife of Clopas, and Mary Magdalene. (NEW KING JAMES VERSION)

➡さて、イエスの十字架のそばには、イエスの母と、母の姉妹と、クロパの妻マリヤと、マグダラのマリヤとが、たたずんでいた。(口語訳)

➡イエスの十字架のそばには、彼の母、彼の母の姉妹でクロパの妻マリヤ (=母の姉妹とクロパの妻マリヤとが同じ人)、マグダラのマリヤが立っていた。(回復訳)

➡兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロパの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。(新改訳)